



## 学校教育目標

「人を大切に、物を大切に、時を大切に」  
～発信力・行動力を身につけ、  
自己肯定感を得られる生徒の育成～



## 素直な心

「感謝の心が幸福の呼び水なら、素直な心は進歩の親。」以前読んだ著書に「素直な心」をこのように表現していました。自分にとって耳の痛い話も、まっすぐな気持ちで聴き、改めることは明日といわず、今日からすぐに改める。そんな「素直な心」が、私たちの能力を伸ばし、自分の成長（自分磨き）につながるということです。もちろん、「素直」とは右を向きなさいと言われたらただ右を向く、そういうことではありません。素直な心とは、自らの至らなさを認め、そこから惜しまず努力する謙虚な姿勢のことです。人の意見をよく聞く大きな耳、自分自身を見つめる真摯な目、それらを常に自分の中に備え、絶えず働かせるということです。自分にとって耳の痛い言葉こそ、本当は自分を伸ばしてくれるものであると受け止めることが大切です。周りの人からの助言や苦言を素直に受け止められているでしょうか？生きていると周りの人から教えられることがたくさんあります。時には叱られることもあります。それに対して、言い訳をしたり、人のせいにしたり、うそをついたり、すねたり、時には居直ったり、開き直って、言い返してしまうことはないでしょうか？

自分一人の考えでは誤った判断をしたり、重要なことに気づかないこともあります。それを自覚し、他の人の意見を謙虚に受け入れることが自分の成長に繋がります。すべてを受け入れるだけでなく、いつでも、どこでも、誰からでも学ぼうとする気持ちで接することが大切です。そうすれば、謙虚な心を持ち続けることができます。異なる意見が出た場合には、まず「意見を言ってくれて、ありがとう」という感謝の気持ちで受け入れ、よいことはよいと認識できる心の柔らかさを持つということです。スポーツも勉強も人間関係も、「素直な心」をもって為せば、なりたい自分に成長でき、自分もまわりの人々もきっと幸せを感じることができます。

「素直な心」を大切にしたい。



毎日、少しづつ「いいこと」を積み重ねていくと、本人も知らないうちに身のこなしが洗練され、表情にも優しさや美しさが漂う。不平不満や人のあら搜しづかりしていると、その心がその人の顔つきになってしまう。人を想う優しさ、その心の持ちようや行動がその人の顔や存在感をつくっていくのです。どれだけ外見をつくろっても、この魅力に及ぶものはありません。（著書「覚悟の磨き方」より）

### ＜2月の主な予定＞

- 4日 1年「オーケストラ入門教室」
- 5日 2年「和の空間」伝統公演
- 10日～ 京阪神「私立高校入試」
- 13日～ 1・2組「冬の宿泊学習」
- 17日～ 公立前期選抜 学力検査等
- 22日 土曜学習（1・2年）
- 25日 公立前期選抜発表  
学年末テスト（1・2年）  
PTA総会

